

第 17 回北広島市市民参加推進会議 会議概要

日 時	平成 23 年 6 月 6 日（月）午前 9：30～12：10	
場 所	市役所本庁舎 2 階会議室	
出席者	委 員 (6 名)	金川委員、木村委員、上井委員、佐藤委員、山野委員、岩泉委員
	【事務局】	工藤行政推進課長、西沢主査、武田主査、川口主査
	傍 聴 者	0 名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 委員・事務局職員 自己紹介 4 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 議事録署名委員の指名 (2) 平成 22 年度市民参加推進手続きの評価について 5 閉会 	
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> ①平成 22 年度市民参加手続き実施報告シート（事前配布） ②平成 22 年度市民参加手続き評価シート ③平成 23 年度市民参加手続き実施予定一覧 （参考）平成 22 年度市民参加手続き実施予定一覧 ④市民参加推進会議委員名簿 	

■会議録

日程1 開会

【事務局】ただ今より、第17回市民参加推進会議を開催します。

開催に先立ちまして、本日全委員が出席しておりますので、市民参加条例施行規則第8条第6項の規定により会議が成立したことを報告します。

それでは、次第に沿いまして日程2の会長挨拶です、金川会長お願いします。

日程2 会長挨拶

【会長】 昨年までお世話になっていた市民環境部市民生活課から企画財政部行政推進課に担当が変わったということで、後ほどその辺について市から説明をいただきたいと思います。

また、私たちが作成した評価シート、実施報告シートについて、事務局が市の各部局において作成していただいたものを事前に皆さんに配布されておりますが、今日はそれを基に議論を進めていきたいと思います。

それから今年度のスケジュールについて少しお話したいと思いますが、今日配布された資料によりますと、私たちの大半が8月4日までの任期となっておりますので、その点も含めて今後のスケジュールを話し合いたいと思います。

それでは、事務局から報告事項ありませんか。なければ、この会議の担当が市民生活課から行政推進課に変更した経緯を聞かせていただきたいと思います。

企画財政部長：

おはようございます。企画財政部長の岩泉と申します。平成18年の1月に市民参加条例の検討委員会を作ったときに企画調整課長として1月から3月までこの会議を担当しており、3回の検討委員会の中で木村副会長、上井委員、佐藤委員、山野委員にも大変お世話になりました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。当時市民参加については企画財政部が担当でしたが、機構改革に合わせて市民環境部に担当が移りました。その後人員削減などにより市民参加、市民協働、男女共同参画という業務がこの4月から企画財政部に戻ってきました。担当する課は行政改革を中心に担当している課ですが、名称が変わりまして行政推進課となりこれらの業務を担当することになりました。ただ職員が今までそれぞれ専属の主査が1名おりましたが、今回は2つの業務を主査1名が担当することになり、今まで行革を担当していた主査2名がそのサブをするという体制になりました。いろいろ委員の皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともよろしくお願いします。

日程3 委員・事務局自己紹介

各委員、事務局職員からそれぞれ自己紹介を行った。

日程4 議題「平成22年度市民参加推進手続きの評価について」

【会長】 それでは議題に移ります。事務局から説明ありますか。

【事務局】 お手元の資料の確認させていただきます。まず、評価シートですが事前に皆さんにお配りした評価シートはA4版ですが、お手元にはA3判で用意してあります。次に平成22年度の市民参加手続き一覧として、年度当初計画していたものを用意しております。それと平成23年度の市民参加手続き一覧として今年度の実施予定一覧表です。配布漏れがないかご確認願います。個別の報告シートは事前に皆さんに配布しております。

- 【会 長】 今事務局から説明がありましたが、皆さん何か質問ありますか。
- 【C委員】 A3版は拡大しただけで、事前配布したものと同じものですか。
- 【事務局】 拡大しただけですが、一部訂正があります。4Pの児童家庭課のH21～23年度の審議会の実施状況ですがBをAに訂正、5Pの建築課のH21～23年度の審議会の実施状況のAをCに訂正、6Pの学校教育課のH21～23年度の審議会の実施状況1回を2回に訂正願います。
- 【副会長】 後から聞こうと思ったのですが、このAとかBは違う施策ということですか。
- 【事務局】 同じ時期にパブコメが2回とか審議会が2回とかありますので、A、Bとかの区別がないと同じ事案で手続きが2回されたのか違う施策なのか判断できないと思い、事務局で記入しました。不要であれば後で削除します。
- 【A委員】 22年度がメインなのでH21～23年度の実施状況については施策名を省略したもので、この表記でいいと思います。1回とか6回とかいきなり出てきますが、これは22年度に1回実施したという意味ですね。
- 【事務局】 その通りです。
- 【副会長】 A、Bはどこかに脚注として入れたほうがいいですね。それと評価がABCなので、注記が必要ですね。
- 【会 長】 次に議事録署名委員が必要ということなので、私の方から指名させていただきます。名簿の順に今回は上井委員を議事録署名委員に指名したいと思いますのですが、よろしいですか。
- 【上井委員】 議事録署名委員とはどういうものですか。
- 【会 長】 議事録を作成する際にチェックする委員です。
- 【上井委員】 今まで議事録署名委員は置いていなかったのですか。
- 【会 長】 今までは議事録署名委員は置いていませんでした。
- 【副会長】 今までは全員で自分の発言のところをチェックしていたのです。
- 【事務局】 議事録を作成したときに、議事録の内容が相違ないことを認証する委員で、通常委員の中から指名して会長と指名された議事録署名委員がサインします。中身の精査は皆さんがされてもいいのですが、最終的に署名する委員です。
- 【上井委員】 了解しました。
- 【会 長】 評価について検討することになりますが、なかなか難しいですがABCの基準を決めないとなりません。例えば、「実施時期」であれば、適正な時期や方法で実施している場合はA、実施時期や期間等にもう少し工夫ができたなどの判断であればB、実施時期や期間、周知方法が不適切であればCなど、基準を決めて評価しなければならないと思いますが、その基準についてご意見ありますか。
- 【C委員】 表現の仕方はいろいろあると思いますが、3つに分けたということは、Aが適当、Cが不適当、Bが改善の余地ありというイメージでABCにしたと思っています。
- 【A委員】 非常にラフですが、市民参加の手続きとしては良く出来ているならA、まあまならB、まずいなど思われるならCという考えです。
- 【会 長】 C委員の意見とほぼ同じですね。
- 【C委員】 大体同じです。特に良く出来たからA(Aまる)とかではなく、きちんとやれているならAという評価です。
- 【副会長】 そこは若干違いがありますね。積極的にいいと評価するか、Aは普通で適正であると評価する

違いがありますね。

【A委員】 Aはよく出来た、Bは普通という感じです。

【副会長】 今までの議論の中でも何回かこの議論はありましたが、統一されていなかったのも、今きっちり
と統一しないといけないと思うのですが、3段階というのは皆さんの意見が一致しておりまして、
適切であるのはいいとして、それ以外のところにマークを付けようという考え方が3段階のときにあ
ったと思います。

【A委員】 小学校ではないのだから、花丸みたいなものは必要ないと思います。

【副会長】 頑張っているやっていると判断できるものには、何かそれを促進するようなマークがあってもいいの
ではないか思ったのです。

【A委員】 それはコメントで書けばいいのではないですか。

【副会長】 それもいいですね。ただ職員がマニュアル通りにしている又は条例などの規則通りにしている
のは普通Bということで、それよりちょっと前向きに努力していると思われる場合にコメント欄に書く
のか、それとも滅多にないがこれはいいと判断したものにはAを付けるという考えもあるではない
でしょうか、Cは明らかに適切ではなく、もっと努力しましょうというイメージをもっていたのですが
どうでしょうか。

【C委員】 評価される側だった場合、それなりに一生懸命適正にやって3段階で全部Bとなる可能性が
あって、一生懸命やったのにAではないのかという気持ちにさせてしまいます。

【副会長】 それではAとBの違いをどう判断しますか。

【C委員】 適切に行われたのであればA、Bは一部問題があるが良しとしましょう、Cは適切ではない又
は改善してほしいものとして、Cがつけば問題があるという意識を持ってもらう。Aについては適
切だけれど例えば今までパブコメが1件とか2件だったのが10件来ました。それにはこういう方
法をとりましたというのがあり、それが大変良いことであればコメントに記載すればいいという考
えです。

【A委員】 それでいいと思います。

【副会長】 B委員はどうですか。

【B委員】 いいと思います。

【副会長】 それでは基本的にAが適切、Bはちょっと問題があるがすごく悪いわけではない、ちょっと努力
しましょうということですね。

【C委員】 例えばちょっと問題があり若干時期が遅れたとかの場合です。ものが出来てしまってからパブ
コメをしたなどの場合はCです。

【会 長】 D委員は今の話を聞いていてどうですか。

【D委員】 その意思決定は、まだこの委員会で決定されていないのですか。

【会 長】 まだ3段階で評価するところまでしか決めておりません。

【D委員】 その基準が決まってこの様式ができていると思っていました。

【C委員】 それぞれイメージは持っていました。

【D委員】 それであれば、1つのルールを決めていただければ、それで評価します。

【A委員】 あまりガッチリした厳しいものにすると評価できないのです。

【D委員】 まず、意思統一し早速評価に入らないとあまり時間も無いと思います。

【A委員】 それと少し気になるのですが、審議会についてですが、審議会というのは書式が出来ていて

時期なども決まっているので基本的にAなのです。それにパブコメを1回やっているがたった1回で意見が3つしか出てこない。このようなケースはパブコメだけ見てCだと判断するのか。審議会とパブコメを併せて評価するのか、そこが難しいのです。総合評価ですから全部足してBにするのですか。

【C委員】 具体的に参加手続きごとに評価していく中で判断すればいいのではないのでしょうか。

【A委員】 確かにそうですが、この問題は必ず出てくるものなのです。

【C委員】 各項目ABCで判断しますが、総合評価はたとえばAAABAだったらAなのか、AABBだったらAABCだったら総合判定は何になるのか難しいのではないのでしょうか。

Aに3点B2点C1点として、機械的に何点以上なら総合Aとするのか、会議の中で1件ずつ話し合って全員の合意がとれた評価にするのか。この2通りあると思うのです。

【D委員】 評価していく中で全員の意見の中で自ずとA、Bと判断できるのではないのでしょうか。

【C委員】 今議論しているのは、2月から今まで会議が開催されなかったことにも原因はあります。

【A委員】 まずやってみましょう。

【会 長】 5項目ありますから、C委員が言った通り総合評価はなかなか難しいでしょうね。

【A委員】 その辺は、はっきり決めないでやってみましょう。

【副会長】 いくつか論点もありましたが、今ABCについての考え方は決まりました。そこで表現を確認したいのですが、Aは適切である問題なしという表現でいいのでしょうか。

— 適切だけでいいとの意見多数あり —

【副会長】 それではAは適切である。Bは一部不適切でどうですか。初めに決めておかないと後で齟齬があると問題なので。

【A委員】 不適切という表現はどうかと思います。

【C委員】 一部改善の余地ありという意味ですが、この表現が適当かは今判断できませんね。Cに関しては改善の余地ありということです。

【副会長】 不適切という表現は使わないということですね。

【C委員】 Aを適切とすればCは不適切なんでしょうけど。

【副会長】 大いに改善余地ありではどうでしょうか。

【C委員】 大いには要らないのではないのでしょうか。

【A委員】 ABCだけでなく文章でそれを表したいのですか。

【副会長】 今決めないと今後考え方がズレていってしまいます。

【C委員】 文章で表現しないと、この評価を見た人がAの基準はどういうものなのか分からないのです。

【副会長】 Aは適切、Bは一部改善の余地あり、Cは改善の余地ありで、皆さんのイメージと大きくズレていなければこの表現で行くということでもいいですか。

【C委員】 今決めるのですか。

【副会長】 日本語表現として重要なことなので、仮置きにしておきましょう。

【A委員】 今は大体のイメージとして後から決めましょう。

【会 長】 Aは適切、Bは一部改善の余地あり、Cは改善の余地ありですね。

【副会長】 Cは大いに改善の余地ありを含んでもう少し努力してほしいということです。もう一つの論点は、C委員もA委員も心配していた個々の手法毎に複数の手法を行っている場合に、どういう評価をするのかは重要な問題です。常識的には、また今まで私たちが勉強してきた中では、一応この

個別シートを担当課に書いてもらっているんで状況は分かります。単独の手法のものが多くけれど、中には交通総合連携計画など何種類の手法をとっているし、まだこれから参加手続きを取るかもしれないわけで、この場合実施時期とか周知の方法とかそれぞれ違うわけですから、いきなりパブリックコメント、審議会、アンケート、その他を含めてABCで評価するのは難しいです。

【C委員】 それを言うとこの表が根本から違うということになります。

【副会長】 そこまでは戻らないで評価していくということになりますね。

【A委員】 そこで一番問題なのが、審議会だけを見ると良く出来ました言う評価になるが、ほかを見るとできていないという場合は、Bと評価することになるのでしょうかね。

【副会長】 つまり総合的に評価するということですか。いくつかの手法をとっていても、実施時期は全体的には適当であるが、例えばパブリックコメントは非常にまずい時期に実施しているというようなケースでは、全体の評価では実施時期の評価は下がるということですね。

【C委員】 そのとおりです。

【副会長】 その方法と、手法毎に評価するという方法もありますね、

【A委員】 手法毎には評価しない方法です。

【C委員】 手法毎に評価しないということで、この評価シートになったのです。

【副会長】 皆さんそれでいいですか。複数の手法をとっていても総合的に実施時期について評価するということですね。

【C委員】 評価のコメント欄に全て押し込めるのもどうかとは思いますが、単純に評価できない場合は、コメント欄で補足するという方法にならざるを得ないと思います。

【会 長】 みなさんがそれでよければ、今話した方法で評価を進めていきたいと思います。

【副会長】 手法が何種類あろうとその事案の評価は1つにするという方法でいいですね。もう一つの論点は、総合評価は個々評価を行い最終的に全体をみて総合評価するという方法でいいですね。

【会 長】 それでは次に進め方ですが、今評価の方法は皆さんの合意ができたということで、評価の仕方についてですが、全体で1件ずつ評価していくか、分担して評価していくか決めます。

【A委員】 少人数ですから2時間かけて全員で評価していけばいいのではないですか。

【副会長】 この個別シートは皆さん見てきたと考えていいですか。

【C委員】 全てを確認してきたとは言えないです。

【A委員】 全員で評価していけばいいのではないですか。

【C委員】 進め方ではなくて、もう評価に入るということですか。

【副会長】 その資料について質問したいのですがよろしいですか。

【会 長】 それは事務局に対してですか。

【副会長】 はい、確認です。まずこの評価シートですが全部局を記載してはいないのですね。

【事務局】 全部局は記載しておりません。参加手続きがない部局については省略しています。

【副会長】 ということは、21年度から23年度にこの事務がない部局は入っていないということですね。

【事務局】 平成21から23年度に何も対象となる事務がない部局については、ただ部局の名前が入るだけで他は全て空欄になりますので省略しています。ただ22年度に何もなくても21年度に実施したとか23年度に実施する予定がある場合は記載しております。

【C委員】 A委員は全部局乗せると言っていましたよね。

【A委員】 そうですが表が長くなるという判断でこうしたのでしょうかから、必要なものを入れてもらえればい

いです。

【C委員】 空欄にするということに意味があると力説していましたよね。

【副会長】 市全体の機構は別の資料をみれば分かりますし、そもそも市民参加手続きに関するような事務がない部局もあるでしょうから、最終的には、ただし書きとして21年度から23年度に該当する事務がなかったのを省略したということを明記すればいいですね。

【A委員】 そのような記載は不要ではないですか。

【副会長】 市民目線で考えれば、なぜ全部局がないのかと思われるのではないのでしょうか。

【C委員】 その部分を突かれたいようするというただの資料作りにしか思えないのですが。

【副会長】 平成21年度から平成23年度に実施実績があつて22年度にない、例えば児童家庭課とかはどうでしょうか。

【C委員】 市民参加手続き評価シートですから、参加手続きのなかった部局まで載せる必要はないという考えです。

【A委員】 この方法でいいです。

【副会長】 評価シートについては、対象なる部局だけ記載する方法でいいですね。それで、実施報告シートで分かりにくかったところがあつたのですが、皆さんどうですか。

【A委員】 たとえば2ページ目のパブリックコメントですが、12月15日から1月13日と書いていますが、この間に何日やったのかと記載するものではないのでしょうか。それを日数30日と書いてあるがそれは計算すれば分かることで、何のために書いてあるのですか。

【C委員】 期間が書いてあるので日数は不要ということですか。

【A委員】 12月15日から1月13日の間に何日やったのか、その日数を記載するところではないでしょうか。日数は何のために書いてあるのか分かりません。

【副会長】 どれくらいの期間市民に参加の機会を与えているのか一目で分かるようにです。

【A委員】 了解しました。

【会 長】 ほかに疑問点があれば今のうちに詰めておきましょう。

【副会長】 生ごみの分別収集について、市民説明会は別紙となっていますが別紙はありますか。

【事務局】 担当課から別紙に参加した人数を開催日毎、会場別に表形式で提出があつたので、集計して26日間7会場1,354人と記載しました。

【C委員】 そういう場合は裏面の予備欄に記載することになっていたはずですよ。

【副会長】 会場を記載している課もありますのでここに記載して頂きたいです。

【A委員】 別紙と担当課が書いてきたのを消せばいいだけのことです。

【副会長】 詳しく書いていないと例えば7会場がどの地区にどれくらい分散して開催したのか評価するのに必要ですよ。

【会 長】 別紙を後で出してください。

【事務局】 了解しました。

【C委員】 別紙は添付しないで、このシートの中で完結したほうがいいと思います。

【副会長】 やはり別紙がないと評価できないと思います。

【D委員】 この欄では表現しきれない量なのですね。

【C委員】 予備欄はどのように使うのですか。例えばパブリックコメントを2回開催したときなどに使用する欄ですよ。

【副会長】 会場と日時はそれぞれ書いて下さい。例えば街区公園整備事業のワークショップではそのように書いてあります。

【A委員】 集計した7会場で26日間1,354人参加で分かるのではないですか。

【C委員】 各会場の参加人数とか日数までの情報が必要かどうかということですね。あったほうがいいとは思いますが。

【A委員】 例えば市民参加条例の参加手続きなどもそうですが、全部記載するとなれば膨大な量になります。

【副会長】 どこまで書いてほしいとか記入要領などを示していないので、バラつきがあっても仕方ないかもしれませんが、今後どうするかということです。

【C委員】 問題はその情報が必要かどうかです。あったほうがベターですが、あまりにも膨大になったり手間がかかるのであれば、このように集計しても止むを得ないものと思います。

【副会長】 各会場の場所が問題なのです。市内でどの程度分散して開催したのかが重要なので、会場名だけでも記載してほしいです。

【C委員】 会場名だけでなく参加人数も必要です。

【D委員】 今担当課からきた別紙を配りますので、それをみて議論しませんか。

【副会長】 この情報を今後このシートにどの程度書くのかという議論なので、会場名と参加人数は報告シートに書いてもらうということでもいいですね。次に北広島福祉ショップの開設についてですが、ワークショップとなっていますが、委員が持参して説明し、開催について周知もされていないということで、どのようなワークショップなのでしょう。

【C委員】 転記漏れとかではないのですね。

【事務局】 担当課に確認します。

【副会長】 街区公園整備ですがワークショップの周知方法が町内会回覧だけですが、問題ないのでしょうか。

【C委員】 そのことは、以前に確認しています。対象者が町内だけなのでという説明だったのですが、それ以外のPRもすべきではないかと話しました。

【副会長】 その時の説明では、違う手法も取っていますと説明されたのではなかったでしょうか。もう1点ですが、商工業基本計画についてですが、記録の公表について何もチェックされていないので、ホームページを確認してみましたが分からなかったです。公表されているのか確認願います。

【A委員】 細かいことを言えば結構ありますので、個々の評価に入っていきませんか。

【会 長】 質問、疑問点があればそれを処理して評価に入りたいと思いますが、皆さんどうですか。

【副会長】 評価するためには性格な情報の基で行うべきなので、あやふやな点は確認して評価に入りたいので、質問がなければ評価に移ります。

【C委員】 先程の生ごみの分別収集はこのシートに組み込むのか、別紙にするのか決めませんか。可能であれば、別紙ではなくこのシートに記載したほうが良いと思います。予備の欄に記載できないでしょうか。

【副会長】 各会場名と人数及び実施日はシートに記載することで処理願います。

【事務局】 この欄を会場毎に7つに区分し、それぞれ実施回数と参加人数を、裏面の予備欄ではなく表面の「その他」欄を使用していませんので、「その他」欄を潰してアンケート欄を下げ、市民説明会の欄を2段書きにするという形はどうでしょうか。裏表に記載するより見やすいと思います。

- 【会 長】 「その他」欄を取り市民説明会を2段にするということによろしいですね。それと福祉ショップの開設のワークショップについて各委員に持参説明となっている件はどうですか。
- 【事務局】 今担当課に確認しましたところ、検討委員会の委員に持参し説明しただけとのことでした。
- 【副会長】 それではワークショップではないですね。一切公開はしていないのですか。
- 【事務局】 持参し説明した結果、意見はなかったとのことでした。
- 【副会長】 このようなケースはほかにもあるのでしょうか。
- 【D委員】 事前に資料を配布して、審議会においてまた意見をいただくということではありますが、このケースはそれとは違います。
- 【副会長】 市民である部会の委員に説明したということで市民参加といえると思いますが、ワークショップではないですね。審議会とも違いますか。
- 【事務局】 審議会であれば、開催する暇がないことから持ち回りということもありますが、今回は検討委員会の部会の委員に持参説明ということで審議会とも違います。
- 【C委員】 審議会ではなく「その他」としましょう。
- 【事務局】 先程質問のあった街区公園整備事業ですが、町内会回覧のみということでした。商工業振興基本計画については、ワークショップ、審議会とも傍聴席を設置し公開したとのことでした。会議録はホームページ等に乗せてはいませんが、公開しておりますので請求があれば閲覧できます。議事録は公表されていませんが、審議会の開催日や公開であることは公表しています。
- 【副会長】 基本計画そのものはホームページに載せているのですか。この審議会は最初懇話会だったものが審議会になって4回開催されているのですが、その情報がホームページでみつけられませんでした。評価上は非常に難しい評価になります。何も公表されていない審議会というのは市民参加条例からすると問題あるのかなと思います。
- 【C委員】 必ずしもホームページに載っていないでもいいですよ。
- 【副会長】 その通りですが、ただ傍聴席を設置しただけですよ。
- 【事務局】 基本計画書の中には、審議会の内容について概要版を載せています。
- 【副会長】 ほかに質問等がなければ、評価に入っていきたいと思います。最初の「次期総合計画の策定」について評価に入りましょう。
- 【A委員】 これについては、22年4月に実施した1回の審議会で評価するわけですか。
- 【副会長】 22年度の取り組みについては最後の答申を市長に提出したということだけですよ。その成果の発信というのは広報とかでも見えていますので評価しにくいですね。
- 【D委員】 評価していただくとしても、22年度については審議会から答申書を頂いただけです。
- 【A委員】 実質21年度で終わっていますよね。
- 【C委員】 たった1回の開催ですが、委員の公募枠が何人とか公表の仕方、傍聴人、費用とか評価できる項目はあります。たった1回で145,000円支出しているとか、見るべきところはあります。
- 【A委員】 145,000円といっても30人の委員で割れば、4,800円くらいですね。実際には21年度で評価すべきでしょうか。
- 【C委員】 たとえ1回でも審議会が開催されているのですから、審議会としての在り方などやはり評価すべきだと思います。公募枠で見れば30人の委員で5人は少なすぎで最低でも3分の1くらいが適当ではないでしょうか。このような意見が出てくれば評価する必要があります。
- 【副会長】 ほかの審議会はどうかと比べると、決して低い数字ではないとも言えますね。

- 【C委員】 そのように評価をするといろいろ意見が出ますよね。ですから評価すべきと考えます。
- 【副会長】 このケースについては審議会としての基本骨格を評価するということですが、1回の開催で良かったのでしょうか。
- 【C委員】 何時から何時までとは言わなくても開催時間くらい書くようにすべきでしたね。
- 【D委員】 時間的には、市長挨拶、会長挨拶で答申書を市長に渡して終わりましたから、30～40分くらいです。
- 【C委員】 その日30～40分のために出席した委員にも委員報酬を払うのですよね。
- 【D委員】 実質的には審議会は終わっていますが、最終的に答申書の内容を確認したということはしています。
- 【C委員】 以前に都市計審議会に出席をしたことがあります、そのときも1時間もかからないで終わり、発言者も1人か2人しかいないというのが現状ですよね。
- 【副会長】 自己評価欄に今後審議会の常設化の検討とかありますし、21年度の実施状況をみれば、特に問題ないと考えます。その場合AなのかBなのかということですね。
- 【A委員】 今年については1回しか開催していないのに評価するのですか。
- 【会 長】 コメントに今回は最終答申の1回だけと記載して評価すればいいと思います。
- 【C委員】 公募枠とか若干意見はありますが、記録の公表はホームページと閲覧ですが、審議会の公表は大体このような状況が普通ですから問題ないでしょうね。
- 【副会長】 褒めたたえることでもないのだから普通という評価でしょうか。Bという評価ではどうでしょう。
- 【C委員】 適切ということでAでいいのではないのでしょうか。点数を引くというものもないでしょう。
- 【A委員】 オールAということになりますか。
- 【副会長】 仮置きで最後に調整もできますから、特に問題ないということでAにしますか。
- 【会 長】 過去の状況を見ますと審議会を8回開催していますし、部会も開いています。
- 【副会長】 昨年度の開催状況を勘案したうえでAでどうでしょうか。
- 【C委員】 コメントにそのことを記載すればいいのではないのでしょうか。
- 【会 長】 オールAで総合A、コメントに過去の状況を勘案したと記載するということですね。
- 【C委員】 反映・効果はどうですか。
- 【A委員】 無理に評価しなくてもバー表示でもいいですね。
- 【副会長】 それは普通という評価ではないのでしょうか。それとも評価判定しにくいという意思表示がいいですか。
- 【C委員】 総合計画の中身ではなくて、あくまで、市民参加手続きが適正に行われたかを評価するものですから、総合計画を作成するうえで公募枠ですとか市民の意見が取り入れられたということは市民の声が反映され、効果があるとしてAでいいと思います。
- 【副会長】 B委員どうですか。
- 【B委員】 C委員の意見でいいと思います。
- 【会 長】 オールAで総合A、コメントに最終審議会なので記載しますか。コメントは皆さんが感じたことを次回の会議の際に出し合って検討するか、今ここで文章を作りますか。
- 【副会長】 今ここで文章を作るのは大変だと思います。考え方を共有するために1件か2件今一緒に議論し、後は皆さんが持ち帰ってそれぞれ評価してきてもらう作業が必要ではないのでしょうか。そうでなければ進まないと思います。それを最終的に全員で調整するというところでどうですか。

【C委員】 今日ここで評価の作業に入るとは思っていなかったもので、内容をあまり精査していません。

【会 長】 この場で1件か2件評価しある程度まとめてみて、後は皆さんが持ち帰って精査し、それを次回に持ち寄り評価するということでしょうか。

— 全員 了解 —

【会 長】 それでは2番目に入ります。平成23年度から25年度推進計画(素案)についてです。

【副会長】 自己評価欄に予算のパブリックコメントと時期が重なってしまったという自己評価があります。

【A委員】 意見が2人というのは少ないでしょう。これはCですね。

【副会長】 根本議論になりますが、パブリックコメントについては意見が多いから良いのか、少ないから悪いのか、これは単純にいけないと思います。

【C委員】 それは単純だと思います。少ないのはダメでしょう。特定の人意見だけ反映されることになります。例えば20人とか30人から意見が出れば違う意見もあり、それを参考にして市で勘案出来るが1人の意見が反映されるというのは市民参加の本位ではないと思います。意見が少ないとパブリックコメントが成立していないとも思います。

【副会長】 その辺が現実とギャップがありますね。

【C委員】 そこで市民の意識を高めないといけないのでしょうね。

【A委員】 このパブリックコメントは23年度の審議会につなげるものだと思いますが、実施時期も悪く意見も少ないことから、全てCだと思います。

【C委員】 実施時期は自己評価でもタイミングが悪いとなっています。

【A委員】 周知の時期が悪いから意見も少ないのです。

【C委員】 周知に関しては広報、ホームページ、閲覧もしているので、これ以上何かありますか。

【A委員】 ではAですか。

【C委員】 周知は適正だと思います。

【A委員】 参加人員はCですね。実施費用は記載されていませんからバーですね。反映効果はこれからですからこれもバーでいいですね。

【D委員】 パブリックコメントについては、今までの経験から参加人員が1人とか0とか必ずあります。

【副会長】 これは北広島市だけではなく国レベルでもパブリックコメントが適正な手法になっているか議論が必要なことですが、この会議では進めていかなければならないので、どういう考えでいきますか。C委員の意見も理解はできます。

【C委員】 確かに意見が多いことが必ずしも良いということにならないケースもありますね。

【A委員】 確かに多くても10名以下で、6~7名もいればAなんですよね。

【D委員】 市民に一番身近な予算でさえ1人か2人です。

【副会長】 先程バー表示についてはできれば避けたいと話しましたが、根本的にもう少し議論したいので、例えば参加人員については今年度はバーとするという考え方もありますよね。安直に5人いたからAとはならないですよね。参加人員は分かりやすい指標なので活用したいところですけど、選択を考えてはどうでしょう。

【C委員】 多いほうがベターだけど、多ければいいという訳ではないということですよ。D委員も少ないほうがいいということはないですよ。

【D委員】 それはないと思います。

【C委員】 パブリックコメントをどこかの団体に声をかけて100とか200出たというケースがありましたね。

これは特別なケースだと聞いたことがあります。

【副会長】 重要な問題でいろいろな意見もあると思いますが、疑問を抱えたままで評価をするというのは参加人員については難しいので、むしろ評価したいのはどれくらいパブリックコメントをしているか市役所から市民に対しアピールしたかが評価の重要なポイントで、それをどういう形でフィードバックしたか努力をしたかをポイントに評価してはどうですか。つまり周知方法、実施時期で判断することになりませんか。参加人員については保留にしませんか。

【C委員】 参加人員を評価しないで何を評価したのかとなりませんか。

【副会長】 法則を見つけたいですね。有効な指標になるものはありませんか。

【C委員】 いろいろな事情を勘案して評価してはどうですか。コメントがあまり多いと注意ですね。

【副会長】 ケースバイケースで考えるということで、あくまで参加人員も評価する方向でいいですね。

【A委員】 ここはバーでいいのではないですか。

【C委員】 Cではなくバーですか。

【副会長】 0件と1件以上を同じにするのはどうかと思います。

【C委員】 例えば0件だったらCですか。パブリックコメントをした意味がないですね。

【副会長】 結果論として市民が誰も参加しなかった訳ですからね。

【会 長】 このケースは2名ですからBということですか。

【副会長】 この考え方で当分進めますか。

【D委員】 民意という部分も考えますよね。1件だったらCと付けた場合、その1件が市の考え方に賛成です市の考え方で進めてくださいという意見の場合、どのように考えますか。

【副会長】 その場合パブリックコメントの中身まで入って評価しなくてはならないですよ。

【C委員】 参加人員を評価する訳ですから、コメントが1件でしたらCとかBと評価します。しかし、総合はAということもあります。人数を評価するわけですから、内容の良し悪しとか意見が反映されたかは人数の評価には入れなくていいのです。1人ならダメで2人なら良いという線引きはできるのかということです。ただし、0件はまずいでしょう。広報とか費用を掛けて募集したのに全く反応がないということですから。これを突き詰めていくとパブリックコメントに対する意識とかの文化が市民の中にどれくらいあるのかということになりますが、そういう意識が高い中で出てこなかったのか、そういう意識があまりないという中で意見がなかったのか。

【副会長】 3段階評価ではなくて、参加人数を入れるというのはどうですか。

【C委員】 それは評価ではないです。

【副会長】 総合評価を判断する上での指標として評価欄に記入し、例えば事案によっては市民との距離があって関心を持ってもらえないというハンディがあるとかを考慮して総合評価するという事です。今の段階でAとかBとか評価しないで、参加人数を記入するというのはどうですか。

【C委員】 そうすると評価ABCという中に参加人員という項目が不要ということになります。報告シートに参加人数が記載されており、それを評価する訳です。それが、報告シートに記載されている数字をそのまま転記するということは評価していないということです。

【副会長】 これだけ議論がある中で適切な評価ができるのかということです。

【C委員】 単純に参加人数が多かったか少なかったかで評価して、反映・効果の欄で参加人数は少なかったが反映はAですという考えでどうですか。

【副会長】 それでは具体的にこの2人5件というのはどうなりますか。

- 【C委員】 Bです。
- 【副会長】 Bということは一部改善の余地ありということですね。
- 【C委員】 やはりもう少し多いほうが良いのではないかとことです。
- 【副会長】 個々に事案ごとに判断するということですね。皆さんそれでよろしいでしょうか。
- 【C委員】 それでコメント欄に、参加人員はBとなっていますが、比較的市民の関心の薄い中で2人から意見があったということは、ある程度評価できるというコメントをつけるというのでどうですか。
- 【副会長】 それでは参加人員についてもABCの評価をするということですね。皆さん異論がなさそうですね。
- 【D委員】 パブリックコメントについて参加人員でABCという評価を付けることは反対です。
- 【A委員】 Cでなければいいのですよね。
- 【D委員】 CでなければいいとかAならいいというのではなく、パブリックコメントを参加人数の多い少ないで市民参加手続きの方法が良かったのか悪かったのかという指標にはなり得ないという考えです。例えば審議会の中に公募委員が全く入っていないとかいうのなら理解できますが、パブリックコメントを市民皆さん出して下さいということにはならないと思います。100人ならいいとか1人ならいいとかの議論にはならないと思います。
- 【副会長】 内実を推し量ると非常に空虚なパブリックコメントだったか、非常に少ないけれど政策が良かったので暗黙の賛成を得たという二つの考え方ですね。
- 【D委員】 その部分は推し量れないわけです。それを参加人員だけでABCという評価を付けるのは如何なものかということです。
- 【C委員】 例え0件であってもということですか。
- 【D委員】 その通りです。
- 【副会長】 これは、ここだけでなく永遠のテーマなのです。皆さんの意見がまとまらなければバー表示で保留して最終的に総合判断するときに加味するという方法ですね。
- 【D委員】 コメントでパブリックコメントは数が少なかったと記載してもいいのです。
- 【副会長】 パブリックコメントだけやっている課も結構多くて、そこは評価が非常に曖昧になりすぎます。
- 【D委員】 パブリックコメントだけのところは、意見が少ないということだけで評価がCとなるのでしょうか。
- 【副会長】 参加人員のところだけは数値的な割合でメジャーで測るように入れているのだと、総合評価は別に人数で割り切っていますというのはどうですか。
- 【D委員】 それはおかしいと思います。
- 【副会長】 C委員の考えは多いほうがいいということですから、そこは割り切りましょうということですね。
- 【C委員】 多ければではなく、少ないより多いほうがいいということです。
- 【副会長】 個人の感触では次の世代の委員がその点をどう評価するか、あまり曖昧なことを残すわけにはいかないと思います。
- 【C委員】 例えば参加人数が0の場合は問題だと思うのです。広報でパブリックコメントを募集して結果が0件だったら、それを仕方ないというのは問題だと思います。
- 【D委員】 パブリックコメントを出した側としては何が悪かったのか当然考えます。そこで募集期間なのか文言表現だとか改善しつつ行っています。ところが、実際には何回繰り返してもこのような状況です。意見が出てこないのです。
- 【C委員】 自己評価として行政側も意見が少ないのは問題だという意識はあるのですね。

- 【D委員】 なぜ意見が出てこないのかは分からないのです。パブコメの内容について了承という意味なのか、そうではないのか。
- 【C委員】 内容についてはそうかもしれませんが、参加人数に関しては、0件が適正かそうでないかとすれば、0件は適正とは言えないですね。
- 【D委員】 なぜ、適正とは言えないのでしょうか。
- 【副会長】 先程民意と言われましたが、市民のほうで関心がない、パブコメを見て内容を知ったらこれは大変なことだと意見が出てくるはずなのに、その手前で終わっている。なぜそうなのかというと市民にも問題があるが、市役所の発信の仕方にも問題があります。十分発信しているものもありますが0件の中には発信力自体が問題というものもあります。
- 【C委員】 周知に関しては、やれることはやっているとします。費用をいっぱい掛ければ他の周知方法もあるでしょうけど、一定の予算内で周知はされていると思います。ただ、パブリックコメントという制度があって市民が意見を出せるという市民参加自体のPRが弱いのではないのでしょうか。人数については0件とか少なかった場合は、この会議で改善の余地ありとすることは今後市が市民参加手続きを市民にPRしていくという指標になるのではないのでしょうか。それで評価すべきと考えます。
- 【D委員】 この評価を全て終わった段階で、パブリックコメントのあり方というような意見はいいと思いますが、個別の事案に対して参加人数だけで評価するのはおかしいと思います。今回の評価全体を通して、パブリックコメントについてはもっと分かりやすくPRしなさいとかもっと周知しなさいという意見なら分かります。
- 【副会長】 この案件は相当時間がかかる問題なので、今日の段階で意見も割れていますし、それぞれの委員の解釈で評価するという方法しかないと思います。
- 【D委員】 参加人員についてはそれぞれ意見が違いますが、それぞれの考え方で評価し、次回持ち寄るといってどうでしょうか。
- 【C委員】 評価に参加人員とある以上参加人数そのもので評価せざるを得ないと思います。
- 【D委員】 審議会などはそれでいいと思います。
- 【副会長】 他の自治体も参加人員の項目は設けてチェックしていますけど、総合評価と必ずしも連動せず、パブリックコメント参考数としている扱いです。
- 【会 長】 時間もかかる事案なので、参加人員については次回ということにして先に進めます。
- 【副会長】 この2番目の事案だけでも評価しますか。参加人員は保留して、周知PRはAで、実施費用は特にないですがどうですか。
- 【C委員】 予想されるのは広報の費用ぐらいだと思います。
- 【副会長】 費用の記載のないものが多いですね。
- 【C委員】 分けられないというのもあるのでしょうね。委員報酬などは額が決まっているので出てくるでしょうけど。
- 【副会長】 パブリックコメントの費用については、現場では数字を入れるようなものではないのですか。
- 【D委員】 例えばかなりお金がある審議会などであれば、費用を掛けて全戸配布とかもできますが、ほとんどは広報を使う、或いはホームページを工夫するという方法です。
- 【副会長】 空欄は費用が掛かっていないということですか。
- 【C委員】 外部に支払ったものがないということでしょう。広報に出したからといって広報にかかる費用の

何パーセント分載せたかという訳にはいかないでしょう。広報やホームページに関しては費用なしでいいでしょうね。

【副会長】 実施費用も該当しないということですね。外注分だけ書くことが基本のようですね。

【C委員】 金額を記載しなくても、広報の経費内だとか文章で書いてもいいのですよね。

【副会長】 特段の費用が掛かっていない場合は空欄であるということでもいいですか。

【事務局】 担当課の予算で執行すれば記載されるでしょうが、広報もホームページも費用は掛かっていますが、広報に掲載を依頼したとしても担当課の予算から広報担当課に支払うという仕組みではないことから、空欄になっています。

【副会長】 パブリックコメントについては、そのようなケースが多いのでしょうか、空欄が多いですね。

【事務局】 パブリックコメントについては、担当課では直接費用は掛かっていないと思います。

【副会長】 それでは次の公共交通総合連携計画は外注をしていて、むしろこれは例外なのですね。

【事務局】 新聞折込みをしていますのでその費用です。

【副会長】 他の課は空欄なのは、外注していないということですね。

【事務局】 広報とホームページだけであれば、空欄になります。

【副会長】 そうであれば、空欄ということで適正に行われているということですね。評価は A ですね。

【会 長】 A がいいのかバーがいいのでしょうか。

【C委員】 広報とホームページにより周知しているわけですから評価はできますね。逆にもっと費用を掛けたほうがいいのかということもありますね。

【副会長】 これも安ければいいということにはなりませんね。

【C委員】 このパブリックコメントについては、広報とホームページにより周知しており、ほかに費用も掛かっていないので不適切とは言えないし、広報経費など掛かっている訳ですから評価もできると思います。

【副会長】 A でいいですよ。

【C委員】 この3段階評価では基本的には A でいいと思っていました。

【副会長】 何も問題ないのは B と考えていました。ただ、今回バーも結果的には問題なしと考えていますが、それをバーとするのか他の記号で出すのかということで、意見が少し違いますよね。

【A委員】 バーにするのは評価のしようがないというケースですよ。実施費用については A ですね。

【C委員】 話がちょっと戻りますが、ABC の評価ですが、問題なしという言葉が入ってもいいのではないのでしょうか。

【副会長】 適切問題なしですか。

【A委員】 適切でいいのではないですか。全く問題なしという訳でもないです。

【副会長】 次の反映・効果はどうですか。

【A委員】 バーでいいのではないですか。もしくは今のところ A もありますか。

【C委員】 反映と効果は一緒だと難しいですね。2人から意見があり反映されていると思いますが、実際は内容を聞かないと分かりませんよね。

【副会長】 それは自己評価欄に記載されると期待していたのですが、そのように書いている課もありますね。

【会 長】 自己評価欄には、意見は件と少なく政策決定に反映されるものではなかったとあります。

【C委員】 自己申告で反映するものはないと書いて B とか C になって、書かなければ A になるのはおか

しいですね。

- 【副会長】 政策に有効なものでなければ当然反映しないもので、自動的に反映されるものではないですよ。他の資料を見ないと判断できませんね。
- 【会長】 時間も残り少なくなったので、今度どのように進めるか話し合ひましょう。このようなやり方ではずいぶん時間がかかると思いますが、分担して評価して持ち寄り検討するか、全員で全部評価して次回みんなで検討するかですね。
- 【A委員】 今評価した結果はどうでしたか。
- 【副会長】 反映効果で止まってしまいましたので、時期は C、周知 A、参加人員 B、費用 A、反映効果バーで総合 A ですね。
- 【A委員】 参加人員のところは A でもいいですけど。
- 【D委員】 審議会に公募委員が 0 とかであれば、C で改善の余地ありでもいいですが、パブリックコメントだけであれば参加人員は A でいいと思います。
- 【A委員】 それでは、C、A、A、A、バーで総合 A ですね。
- 【副会長】 参加人員も A ですか。
- 【A委員】 2 名でも適正だと思います。
- 【副会長】 その辺がまだ検討必要ですね。基本的にバーも含めて 4 つの種類でこのようにそれぞれ評価してくるという作業をしますか。
- 【C委員】 それぞれが評価したものを次回持ち寄って検討するというのでいいですね。
- 【A委員】 コメントも入れてくるということでいいですね。
- 【会長】 評価とコメントを次回に持ち寄ることでいいですか。
- 【副会長】 次回の委員会までに集約するか、次の委員会に持ち寄るかスケジュールが変わってきますが、今後のスケジュールはどうなっていますか。
- 【事務局】 まず、どれくらいの期間でみなさん評価が出来るのかによりますので、それにより日程を調整します。
- 【C委員】 任期の 8 月 4 日を考えると、逆算してスケジュールを決めるのか、任期切れで後任に任せるのかによりますね。
- 【副会長】 後に任された人は困ると思います。
- 【C委員】 あと何回委員会が必要かですね。
- 【副会長】 それと公表する報告書も作成しなければならないですね。
- 【D委員】 今月末でどうでしょう。
- 【副会長】 それぞれの評価を一括して回覧するほうがいいと思うのですが。
- 【D委員】 事務局で全員の評価を一覧に取りまとめて、皆さんに回覧しますか。
- 【C委員】 全員の評価を見なければならぬですよ。
- 【A委員】 事務局も大変ではないでしょうか。
- 【C委員】 委員会の中でその場で検討してもいいのではないですか。
- 【B委員】 全員が作らなくても、会長が素案を作りそれを皆さんで検討するという方法もあります。
- 【会長】 それぞれ 3~4 件ずつ分担し、それを皆さんで検討するという方法もあります。
- 【C委員】 ABC はそれほど時間がかからないと思いますが、コメントはその場で考えるのは時間がかかりますから各自作って持ち寄りますよね。それなら、評価もそれぞれやりましょう。

- 【会 長】 それを事務局で一覧表にしてもらいますか。
- 【A委員】 一覧表を作らなくても、委員会当日に皆さんで検討すればいいと思います。それで、基本は A で、はっきりした理由があれば B、C にする。それに対するコメントを 2、3用意してきて、委員会の場で皆さんで検討するというのでいいですね。
- 【C委員】 事前に皆さんののをもらっても十分に精査する時間が取れないかもしれませんので、自分の評価とコメントを作成して持ち寄ることでもいいです。
- 【会 長】 次回の会議に持ち寄ることとして、日程はいつにしますか。
- 【事務局】 皆さんの日程もそうですが、議会が始まりますので今月下旬でどうですか。
- 【会 長】 副会長はどうですか。
- 【副会長】 21 日以降でお願いします。
- 【事務局】 27 日の週で調整します。27 日から 30 日までで都合の悪い日があれば教えて下さい。それと、午前と午後のどちらがよろしいですか。
- 【会 長】 午前がいいです。
- 【C委員】 できれば週の初め月曜から水曜がいいです。
- 【事務局】 そのあたりで日程を調整して連絡します。
- 【副会長】 報告書についてですが、各委員のやり残したことなどメモしてきていただければ、後はこの評価シートを報告書に載せればいいですね。
- 【C委員】 前回のよう項目別には作らないということですね。
- 【A委員】 総合報告のメモはどうですか。
- 【C委員】 次回の委員会まで時間があるので出来ます。
- 【副会長】 次の委員の募集は決まったのですか。
- 【事務局】 広報 7 月 1 日号で公募します。
- 日程5 閉会
- 【会 長】 それではこれで閉会します。皆さまお疲れ様でした。

以上この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人は次のとおり署名押印する。

平成 年 月 日

議事録署名委員

議事録署名委員